

## 住宅屋根用化粧スレート・波形スレート（アスベスト含有）・プレスセメントがわら

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗面積 (m <sup>2</sup> /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。(含水率は8%以下、pHは10以下)									
下塗り	水系パワーシーラーⅡ 16kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15~0.20	80~107	—	—	2h以上	—
上塗り	ナノーフ15 15kg	5~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15~0.18	42~50	—	2h以上	—	12h以上

※屋根材劣化が著しい場合は、洗浄を充分に行い、下塗りに「エポックマイルドシーラー(弱溶剤系)」をご使用ください。

※劣化したプレスセメントがわらの下地調整には「水系ルーファ-EX」をご使用ください。

※旧塗膜が活膜の場合は、シーラーは必要ありません。

## ノンアスベスト波形スレート

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗面積 (m <sup>2</sup> /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg 硬化剤1kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー エアレス	1(~2)	0.1~0.15	73~110 (36~55)	8h以内	— (4h以上)	5h以上 7日以内	—
上塗り	ナノーフ15 15kg	5~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15~0.18	42~50	—	2h以上	—	12h以上

※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

## 乾式洋瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗面積 (m <sup>2</sup> /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	高圧水洗しながらマジロンやデッキブラシを用いて脆弱な着色スラリー層を除去します。(洗浄機水圧)12MPa(120kgf/cm <sup>2</sup> )以上。水洗後の洗浄水は着色する場合があります。直接下水道に流さず回収してください。詳しくは弊社スラリー強化プライマーⅡカタログの塗装手順をご参照ください。									
下塗り	スラリー強化プライマーⅡ 主剤6kg 硬化剤2kg	75%(6kg) (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	1	0.13~0.18	44~62	2h以内	—	8h以上	—
上塗り	ナノーフ15 15kg	5~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15~0.18	42~50	—	2h以上	—	12h以上

※乾式洋瓦の塗り替えは、素地調整に留意すべき点があるため、必ず「スラリー強化プライマーⅡ」もしくは「エポックマイルドシーラー」のカタログをご参照ください。

※下塗りに「エポックマイルドシーラー(弱溶剤系)」も使用可能です。

※スラリー強化プライマーⅡは、夏季可使用時間が短くなります。(30℃/1時間 35℃/30分)

## アスファルトシングル

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗面積 (m <sup>2</sup> /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。(含水率は8%以下、pHは10以下)									
下塗り	水系アスファルトシングル用 下塗り 15kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー	1	0.35~0.4	38~43	—	—	6h以上	—
上塗り	ナノーフ15(艶消) 15kg	5~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	2	0.2~0.3	25~38	—	4h以上	—	16h以上

※見かけでは乾いているようでも、重なり部分に入った塗料は乾燥しにくいいため再度溶出するおそれがあります。規定の塗付量を守り、重なり部に入らないようにしてください。

※アスファルトシングルの上塗りには、必ず艶消しをご使用ください。

## カラー鋼板、表面未加工のガルバリウム鋼板、金属製役物

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗面積 (m <sup>2</sup> /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエボン 主剤9kg 硬化剤6kg	5~7% (希釈水)	ハケ・ローラー	1	0.16~0.18	83~94	4h以内	—	16h以上 7日以内	—
上塗り	ナノーフ15 15kg	5~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12~0.15	50~63	—	2h以上 7日以内	—	12h以上

※さびの発生が著しい場合は「ハイエボン#1000(溶剤系)」も使用可能です。

※水系ハイエボンは、可使用時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使用時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。

※水系ハイエボンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエボン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

## ●基材劣化が著しい場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗面積 (m <sup>2</sup> /缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg 硬化剤1kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー エアレス	1(～2)	0.1～0.15	73～110 (36～55)	8h以内	- (4h以上)	5h以上 7日以内	-

※20年以上経過した基材など、表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」を2回塗りしてください。

※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

## ●各種窯業系屋根材をより美しく仕上げる場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗面積 (m <sup>2</sup> /缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	ハイパーサーフ 15kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー エアレス	1	0.2～0.4	38～75	-	-	4h以上	-

※乾式洋瓦、又は表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」をハイパーサーフの前に塗装してください。

### <塗装仕様の注意点(共通)>

- ①塗付量には希釈割合は含まれておりません。塗付量は条件により増減します。
- ②夏場、屋根材温度が高い場合は、乾燥速度を調整するため希釈量を増やしてください。
- ③2液硬化型塗料は、可使時間を過ぎて使用すると塗膜性能不良となります。

## 注 意 事 項

### 【ケレン・清掃・洗浄の方法】

#### ＜窯業系基材の場合＞

- ほこり・ゴミ・苔等を、ワイヤブラシ・タワシ・高圧洗浄機などで丁寧に除去。波形スレートの溝の部分、重ね箇所、フックボルト周辺は特に注意する。  
※黒くなっている場合は、全面をタワシでこすり、スレート素地を出す程度まで付着した異物を取り除く。  
※ひび割れや防水の必要な箇所は、清掃後シーリング材で充て込んでおく。(シーリング材は、ウレタン系・ポリサルファイド系をおすすめします。シリコン系は不適)
- 古い塗膜のある時  
※浮き上がった塗膜(アクリル系でもウレタン系でも同様)は、ワイヤブラシでよくケレンし、活膜だけを残す。  
※旧塗膜の艶が良くチョーキングしていない膜は、サンドペーパーで表面を軽く粗す。

#### ＜金属系基材の場合＞

- さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。

### 【塗装・養生】(窯業系・金属系基材共通)

1. エアレス吹き付けは中圧力(8～10MPa)程度がよく、圧力調整のできる機種で中位に調整してください。
2. エアレス吹き付けなどの場合、塗料の飛散に特にご注意ください。  
※付近の建物や車など、付着してはいけないものはあらかじめ養生してください。  
※軒先塗装は圧力を低下させ、あて板などで養生してください。
3. 塗料がガラス、アルミサッシなどに付着したときは、すぐにウエス等に水をしみ込ませてふき取ってください。  
※乾いたときは、ラッカーシンナーで傷つけないようにふき取ってください。  
※自動車等に付着したときは早急に水洗いしてください。
4. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
5. ハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
6. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色相差がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
7. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット、同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
8. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
9. 金属屋根のはげ部分など、構造上膜厚が付きにくい部分は、さびが生じやすいため、拾い塗りなどでしっかりと塗装してください。
10. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
11. 塗装中に塗料を開放して放置すると上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
12. 塗装後の器具およびハケ・ローラーは直ちに水洗してください。なお、落ちにくい場合はラッカーシンナーで洗浄してください。

### 【施 工】(窯業系・金属系基材共通)

1. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合には塗装を避けてください。
2. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度(80%以上)・低気温(5℃以下)の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。(特に塗装後3～5時間程度は、絶対に雨などにあわないようにしてください。)
3. 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに塗装を終えて充分な乾燥時間を確保してください。
4. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
5. 2液型塗料の主剤と硬化剤の混合は必ず規定の割合で混合し、マーゼル等で充分攪拌してください。
6. 2液型塗料の塗料ごとの可使時間内に塗装してください。また、気温が高い場合極端に可使時間が短くなりますので、手際よく塗装してください。
7. 塗料は内容物が均一になるように攪拌してください。薄めすぎは隠れ力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
8. 塗装間隔は、被塗物の立地条件や気象条件等に大きく左右されますので、各工程の乾燥を充分確認の上、次工程に進んでください。
9. 夏季など、瓦の表面温度が特に高い場合(手のひらをあてて熱さを感じる位)は、散水してから塗装してください。
10. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質(VOC等)に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
11. 塗装による臭気、近隣に迷惑を掛けることがありますので、十分に配慮をお願いします。
12. 排水溝には捨てないでください。

### 【緑切り】(窯業系基材の場合)

1. 水切り部(基材の小口間)が塗料で塞がっている箇所はスクレーパー等で緑切りを行ってください。(基材と基材の間に隙間がないと、結露や雨水の逆流により、雨漏りや敷板が腐る恐れがあります。)

### 【保 管】(窯業系・金属系基材共通)

1. 小分けする場合は、充分攪拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いや硬化不良等の原因となります。
2. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
3. 2液型塗料は、主剤と硬化剤を別々に密栓し冷暗所に保管してください。また、開栓後は早めに使い切ってください。
4. 保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
5. 開栓後は直射日光を避け、皮張りした場合は、必ず取り除いてください。(一度乾燥した塗膜は水に溶けませんのでガン詰まりやフツの原因になります。ご注意ください。)
6. 材料の保管、取り扱いには消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。
7. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。